

**意見交換会（宇治市都市計画マスタープラン）議事録**  
**対象：宇治地域**

日時：2021/10/14 19：00～20：40

会場：ゆめりあうじ

参加者：8名

宇治市：米田副部長、森田係長、下條主任、藤田主任

マスタープラン検討部会：森委員

発言者	内容
参加者①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中宇治地域の道路について、県通りは伝統的な市街地に幹線道路を通してしまった結果、コインパーキングが増え、昔ながらの街並みが失われている。県通りには平等院の土地を借地して住まわれている人が多く、住民は代が変わると出ていき、返上した土地にコインパーキングがつくられている。平等院と宇治市が話し合いを行う必要があるのではないか。</li> <li>・ 本町通りは昔の道の形は残しているが、都市計画道路の計画があり、道路が真直ぐに整備されると、町家などの昔の街並みを壊すことになる。旧街道の保存が必要である。道路計画についても宇治市や城陽市、久御山町の担当者や専門家だけで、昭和 30 年代の古い考え方に基づいて決められたもので、住民の意見が入っていない。</li> <li>・ 宇治橋通りは上手くいった例である。15 年ほど前、京都府がワークショップ形式で商店街の人々と検討会を複数回行い、その都度、結果を分かりやすく新聞で報告した。宇治市も検討した内容や問題点などを分かりやすく紙面で示して欲しい。住民の意見を聞く工夫をするべき。</li> </ul>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 都市計画道路については平成 24 年に見直しを行い、中宇治地域についても景観や歴史等を考慮し、一部廃止した箇所もあります。しかし、本町通りは現状の交通量を考えると道路機能の確保が必要であるため、都市計画道路の計画を廃止せずに残しているところです。ただし、地域の課題があることは認識しており、道路整備を行う上でそれらの課題を整理する必要があると考えています。</li> <li>・ また、人々の主要な交通の流れが生活地域の中に入り込んでいる問題があることから、幹線道路の整備が必要となっています。都市計画は宇治市、城陽市、久御山町などで一つの都市計画区域となっており、宇治市の発展を考える上で新名神高速道路との接続や防災などについて、都市全体の交通の流れを考慮して考える必要があります。</li> </ul>

	<p>ます。一方で交通渋滞など中宇治地域が抱える問題もあり、これらの両方の問題をあわせて解決しなければならないと考えています。広域的な道路計画であるため、京都府や周辺市町村と連携して問題の解決に当たっていかねばならないと考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画の案についても、専門家の意見を聞きながら進めてはいますが、必ず説明会などで市民の方のご意見を聞いて行うようにはしています。情報発信についてもホームページや市政だよりなどで行っていますが、発信方法に課題があることは認識しており、試行錯誤しながら周知に取り組んでいるところです。皆様から頂いた意見も踏まえ、今後も改善に努めます。</li> </ul>
参加者①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道路から見た景観も大事である。道路から見た風景がその街の印象を決めてしまう。道路のデザインも画一的にならないようにする必要がある。</li> </ul>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市も景観計画をつくり、景観の配慮に取り組んでいます。街並みなどはすぐに変えられるものではないため、実現には時間がかかりますが、長い視点で取り組んでいるところです。</li> </ul>
参加者②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昔の古い街並みの中で道路を整備していることもあり、歩道が狭い。歩行者や車いすの人が不便だが、どのように考えているか。</li> </ul>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩道を整備するには沿道の土地の用地買収が必要になるため、全ての道路で歩道を整備するのは難しいのが現状です。そのため、道路ごとの役割を考えて整備する必要があると考えています。例えば宇治橋通りは人々の日常生活のために利用される生活道路ですが、そこに通過交通が頻繁に進入すると道路が危険になります。そのためにも都市計画道路の整備し、生活道路への通過交通の進入を防ぐ必要があります。しかし、都市計画道路は住民の方々の理解を得ながら、沿道の用地を買収して進めていく必要があります。一つの幹線の整備だけでも長い期間と費用を要します。そのため、交通渋滞の解消や、防災上の効果、周辺市町村との連携による宇治市の発展などの観点から、整備を優先する道路を絞り、それに集中的に投資する形で進める必要があると考えています。</li> </ul>
参加者③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇治市の用途地域の区分けが昭和 40 年代から変わっていないが、現在では当時よりも人口が増え、産業構造も変わっているため、考え直す必要があるのではないか。</li> </ul>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時代と共に人々の生活スタイルが大きく変わってきていることは認識しており、今回のマスタープランでは、変化に対応出来るまちづくりを目指す形に内容を変更しています。</li> <li>・用途地域の変更は土地の権利にも関係するので、住民の方の理解な</li> </ul>

	<p>しには簡単に出来ない部分があります。しかし、小倉駅周辺のようにまちが大きく変化し、衰退も起こっている箇所では、まちづくり検討委員会を立ち上げてまちづくりの方向性について検討を進めているところです。その結果を踏まえて、必要な都市計画の変更を進めていきたいと考えています。</p>
<p>マスタープラン 検討部会委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・都市計画法が出来た当時は高度経済成長期で、田畑を住宅地などに換え、都市が広がっている時代であった。当時、静かな住環境を求めて低層住宅地に住み始めた人も今では高齢で移動が不自由になり、商店が近くにある環境を求めるようになってきている。昔と状況が変わっているが法律が社会の変化に追いついていない。行政も運用基準などで対応の幅を広げながら対応しているが、現状として空き家が増えており、宇治市もまちの振興のために空き家対策に取り組んでいるところである。</li> <li>・宇治の産業も都市の変化に応じてどのようなものが必要か考える必要がある。</li> </ul>
<p>参加者③</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇治市で素晴らしいものづくりをして会社が大きくなったとしても定着しないとよく聞く。事業所を展開したくても土地の規制によりそれが出来ず、宇治から離れていく。</li> </ul>
<p>宇治市</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・その問題については本市も認識しています。都市計画法が出来た時、古くからものづくりをされていた土地も含めて住宅地の土地利用規制がかかることになりました。ものづくりの会社が一定のまとまった場所にあれば事業所の用途地域としてエリア設定し易いのですが、点在していると難しく、商工会議所と連携して産業振興に取り組んでいるところです。</li> </ul>
<p>参加者④</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇治市のベッドタウンとしての役割も他方に移りつつある。ベッドタウンとして栄えるには鉄道交通などの利便性が必要であるが、JRの複線化により状況が変わり、今後、宇治市もベッドタウンとしての需要が出てくるのではないかと。そうすると今後の産業振興と共に、働き手を担う若い世代を呼び込むため、空き家利用に対して行政が補助するなどして、若い世代が住めるまちにしてくと良いのではないかと。宇治市も今後再びニュータウンとしてリニューアル出来るかもしれない。長い視点で見てまちづくりの計画を立てることも必要ではないかと。</li> <li>・昭和 40 年代と比べれば現在は観光客が何十倍にも増えており、コロナ前は観光客の車で道路が渋滞していた。しかし、市内の鉄道駅から中宇治地域まではバス交通によるアクセスが不便であるため余計に人々が車を利用するようになっている。JR 複線化により観光地</li> </ul>

	<p>まで歩いて行けるまちを目指すのか、どのようなまちを目指すのか。観光地までの交通手段を拡散させることも必要ではないか。</p>
参加者①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで中宇治地域の人口は、周辺環境の良いところへ流出していると思っていたが、最近では、増えているようだ。魅力的な施設が出来て、良くなる可能性が出てきている。一方、周辺の折居台や琵琶台などの団地は、高齢化して空き家が増え、人口が減ってきている。</li> </ul>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・団地は開発当初に集中的に土地が売り出されるのに対し、中宇治地域は、昔から様々な年代の方が住まわれており、年齢層が平準化されているため、人口が減りにくい傾向があると思われます。</li> <li>・団地に対してもJR複線化とあわせて、若い世代の方が入って来て、働く場があるようにしていくことが大事だと考えています。</li> </ul>
参加者④	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中宇治地域は、数十年前には給料日にユニチカの人達で賑わっていたと聞いている。産業が動くとも雇用が生まれ、まちが賑わい、若い世代の人々も来る。</li> </ul>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宇治市の雇用の多くはものづくり産業ですが、コロナ禍でもまだまだ産業を伸ばせる余地があるので、産業振興に力を入れていきたいと考えています。マスタープランの内容にもそのことを盛り込んでいます。</li> </ul>
参加者③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電柱を除去することはマスタープランに盛り込めないのか。</li> </ul>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例えば「電線の地中化」という大きな目標として盛り込むことは出来ます。</li> <li>・電柱の地中化については、住宅街で通過交通の多い道路では、逆に「電柱があることで車が道路端に接近せずに済むため、歩行者の安全が守れる」という意見が出る場合もあり、他の安全対策などを見ながら検討する必要があります。地中化は中宇治地域のような観光地では進んでいます、住宅地では進んでいないのが現状としてあります。</li> </ul>
マスタープラン 検討部会委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電線の地中化には、地上に大きな機器を置く場所が必要になる。そのため、宇治橋通りでは機器を置くため、民地の駐車場の敷地を提供してもらっており、実現には住民の方の協力も必要になる。</li> <li>・宇治橋通り商店街は他市町村から車で来る利用客が多いため、昔、コミュニティ道路として整備する案もあったが、地元の意向があり今の道路になった。その後、観光客が大勢来るようになるとは当時は想定されていなかった。</li> <li>・カーナビの誘導でも、当初は宇治橋通りを通るルートが表示されていたが、やめてもらうように働きかけた経過もあり、当初に比べれ</li> </ul>

	<p>ば通過車両も大分減っている。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 今後、宇治市・城陽市・久御山町など周辺市町村も含めた全体の計画の中で宇治橋通りの通過交通の誘導を考えていく必要がある。</li></ul>
宇治市	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 道路交通の問題はその場所だけではなく、広域的な交通の流れを見て考えないと解決しないことがあります。</li><li>・ 宇治市の道路渋滞も他府県からではなく、意外と市内の車が多いです。宇治川を渡る橋の数が限られているので、市内の人も東西の移動が制限されていると言った問題があります。</li></ul>